

総合科目

総合科目は全学生8単位が必修です。

総合科目の開設目的

総合科目は、初年次学生（1年次生）が新しい学習環境に適応して、自律的にキャリア形成を始めることを助ける総合科目Ⅰ、広い視野から学問のあり方や人間の生き方を考えるとともに、自分の専攻する分野とは異なる学問分野を経験して生涯学習の第一歩を踏み出すことを目的とする総合科目Ⅱ、及び、1・2年次における基礎、専門基礎教育と2・3年次における専門教育をベースに、社会で活躍する際に必要となる幅広い視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適合性を涵養することを目的とする総合科目Ⅲに区分されます。

総合科目Ⅰは、2単位を必修（人文・文化学群は、2.5単位必修）とし、初年次導入科目として位置づけており、その教育目的は以下のとおりとしています。

- ①大学生活や社会生活への適応
- ②自分の学ぶ大学の歴史を知ることなどによる筑波大学そのものへの適応
- ③学習目標・学習動機の獲得
- ④自己分析のできる自律的な自己の確立
- ⑤ライフプラン・キャリアプランづくりへの案内
- ⑥専門領域への導入

これらのことを踏まえ、開学以来導入しているクラス制度を基本として、フレッシュマン・セミナーという科目をクラス単位で開学当時から開設しています。ここでは、本学の教育システム、履修計画、学生生活（メンタルヘルス、課外活動、宗教勧誘への注意喚起 等）、キャリア支援（キャリアポートフォリオ、就職・進学 等）等、これからの大学生活で必要とされる事項について学びます。

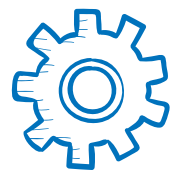
このほか、学習面・生活面における大学への適応を支援するための初年次導入科目を、教養教育機構が全学的な視点で編成し、開設しています。

総合科目Ⅱは、学生の幅広い学びの場とするための科目です。社会からはグローバルな人材が求められていますが、グローバルな人材とは、語学能力だけでなく、高いコミュニケーション能力を備え、広い視野を持つ人のことを指します。学生はそれぞれの関心や興味に従って科目を履修しますが、「広い視野を養う」という総合科目の開設目的に沿った履修を促すために、以下のとおり科目を分類し、履修の方法を定めています。

- 科目群A：物質、数理、生命、環境等に関わる科目で概ね理系分野
- 科目群B：精神、文化、社会、歴史等に関わる科目で概ね文系分野
- 科目群C：文系と理系が融合した、より広範な主題からなる科目

科目群A・Bにおいては、文系の学生にとっての理系入門、理系の学生にとっての文系入門としてふさわしい科目が開設されるよう、教養教育機構が開設学群・学類と調整しています。

科目群Cには、科目群A・科目群Bの区分にまたがる、より広範囲なテーマのもとに開講される科目、心身・技能の養成に主眼をおいた総合科目が含まれています。



総合科目Ⅲは、高年次教養教育として位置づけられており、社会で活躍する際に必要となる幅広い視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適合性を養うための科目です。総合科目I及びIIの履修後も、1・2年次における基礎、専門基礎教育及び2・3年次における専門教育をベースに、さらに高度な教養を身につけるため、以下のとおり科目を分類しています。

科目群D：物質、数理、生命、環境等に関わる総合科目（総合科目II科目群Aの発展科目）

科目群E：精神、文化、社会、歴史等に関わる総合科目（総合科目II科目群Bの発展科目）

科目群F：上記二つの科目群にまたがる総合科目（総合科目II科目群Cの発展科目）

科目群G：汎用的能力に関わる総合科目（総合科目Iの発展科目）

履修方法等について

■総合科目Ⅰ

総合科目Iは、フレッシュマン・セミナーと初年次導入科目の2種類があります。

フレッシュマン・セミナーは自分の所属する学群・学類・クラスの科目、1単位（人文・文化学群は1.5単位）を履修します。この科目は、「クラス」単位で受講することになりますので、他の学生とコミュニケーションを図り、友達になる機会でもあります。

初年次導入科目は、全学向けに開設した科目の中から1単位を履修します。ただし、いくつかの学群・学類では、当該学群・学類向けの指定科目を開設し、それを履修することになっています。詳しくは、入学時に配布される開設授業科目一覧及び履修要覧で確認してください。

■総合科目Ⅱ

科目群A及び科目群Bからそれぞれ2単位（計4単位）が選択必修になっています。この4単位のほかに、科目群A,B,Cから1単位を修得し、合わせて5単位を修得する必要があります。

総合科目IIは、学期完結型の科目として、原則1科目1単位で開設されています。各学期約65科目、年間では約130科目が、原則月曜日の1,2時限目に開設されています。

総合科目IIの標準履修年次は1・2年次（1・2年次を通して履修する）になっています。ほとんどの学生が1年次のうちに卒業に必要な5単位（5科目）を履修するようです。そのこと自体は問題ではありませんが、カリキュラムの精神としてはじっくりとこの科目に取り組むことをお勧めします。

科目群A,B,Cという区分を設けて履修の方法を定めていることはすでに述べましたが、従来から、一部の学群・学類では、自学群・学類開設の科目履修は認めないという制限を設けています。これも、皆さんにできるだけ広い分野の要素を身に付けてほしいとの願いからです。

■総合科目Ⅲ

科目群D,E,F,Gから1単位を修得する必要があります。1・2年次における基礎、専門基礎教育及び2・3年次における専門教育をベースとしているため、総合科目Ⅲの標準履修年次は3・4年次になっています。

総合科目IIと同様、原則1科目1単位で開設されていますが、開設曜時限は固定されていないので、学群・学類で開設している専門基礎科目や専門科目が時間割のメインとなる3・4年次生においても、柔軟な時間割を組むことが可能です。